



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成29年7月31日

上場会社名 キーコーヒー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2594 URL <http://www.keycoffee.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 裕
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 三上 武善 (TEL) 03-3433-3311
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績 (平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	16,498	△0.9	513	△45.3	566	△44.4	346	△45.5
29年3月期第1四半期	16,654	3.5	938	41.1	1,019	31.6	636	26.1

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 479百万円(26.0%) 29年3月期第1四半期 380百万円(△24.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	15.60	—
29年3月期第1四半期	28.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	51,294	36,310	69.5
29年3月期	50,707	36,032	69.8

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 35,637百万円 29年3月期 35,378百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	9.00	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	35,000	8.3	910	△30.8	1,010	△28.8	670	△25.7	30.13
通期	68,000	7.9	1,550	12.5	1,770	13.5	1,170	3.1	52.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期1Q	22,689,000株	29年3月期	22,689,000株
30年3月期1Q	458,040株	29年3月期	458,040株
30年3月期1Q	22,230,960株	29年3月期1Q	22,231,055株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日までの3ヶ月間）におけるわが国経済は、政府や日銀の各種政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境の改善が見られ緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、米国新政権の今後の政策運営や欧州の政治情勢、中国をはじめとするアジア新興国経済の先行き懸念など、景気の先行きは不透明な状況にあります。

コーヒー業界におきましては、業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆相場は、世界最大のコーヒー生産国であるブラジルの順調な生育状況による増産の見通しや、消費国の生豆在庫量の増加などを背景に、安定した動きで推移しました。

このような状況の下、当社グループはコーヒーの持つ魅力を生活者にお届けし続けるという企業使命を果たすため、「品質第一主義」の経営理念に基づいて、「ブランド強化」、「収益力の強化」及び「グループガバナンスの深化」を3つの柱とし、新たな事業領域の開拓、生活者のニーズにお応えする新商品の開発やお取引先との絆を深める企画提案型の営業活動を継続して行いました。

事業領域の拡大に向けては、紅茶ブランド「リプトン」を展開するユニリーバ・ジャパンと同ブランドの家庭用紅茶製品に関して、日本における販売総代理店契約を締結し、平成29年3月より販売を開始しております。

業績につきましては、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、164億98百万円（前年同期比0.9%減）、営業利益は5億13百万円（同45.3%減）、経常利益は5億66百万円（同44.4%減）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億46百万円（同45.5%減）となりました。

セグメントの営業概況は次のとおりであります。

(コーヒー関連事業)

業務用市場では、営業力の強化に向けて、近畿圏でのシェアアップを図ることを目的に、大阪府北部エリアを担当する販売拠点として「大阪北営業所」を新設しました。

営業活動としては、「トアルコトラジャ コーヒー」や「氷温熟成珈琲」、世界各地の選りすぐりのコーヒー農園で生産されたスペシャルティコーヒーなど、差別性のある付加価値の高い商品を中心に提案活動を推進しました。お取引先への売上支援策としては、赤、黄、黒色のカレーを取り揃えた「3色彩りカレーフェア」や、マンゴーを使用したケーキやドリンクが楽しめる「トロピカルフェア」を企画し、実施しました。

家庭用市場では、新商品としてカフェインが気になる方に向けて、さらに味わいが向上した「カフェインレスコーヒー」をFP（フレキシブルパック）粉とドリップ オンの2形態で発売、インスタントコーヒーミックス商品では、食後の中性脂肪と血糖値の上昇をおだやかにする効果をもつ、機能性表示食品「カフェ・オ・レ NEW STYLE」を、チルドリキッドコーヒー商品では、芳醇な香りとコク深い味わいのテトラプリズマ「まるやか仕立て 贅香（ぜいか）」（無糖・微糖）などを発売しました。

ギフト商品では、新たにトアルコトラジャの氷温熟成珈琲が加わった「氷温熟成珈琲アイスコーヒー」ギフトや、大人から子供まで楽しめる「リキッドコーヒー&ジュース ドリンク」ギフトなど、飲料ギフトを中心に全36アイテムをラインアップしました。

カフェ開業支援の施策として取組んでおります、さまざまな立地環境に出店可能なパッケージカフェ「KEY'S CAFE」は5店舗出店し、導入店舗総数は49店になりました。

業績につきましては、売上面では積極的な販促活動が奏効し、業務用、家庭用市場で前年実績を上回り堅調に推移しました。原料用市場は販売数量の減少と、コーヒー相場と連動した取引により前年実績を下回る結果となり、全体では減収となりました。また、利益面では原料用市場の影響と今後の売上拡大に向けた販売活動費の投下などにより、前年に比べ減益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるコーヒー関連事業の売上高は141億47百万円（前年同期比1.5%減）、営業利益は5億12百万円（同47.0%減）となりました。

（飲食関連事業）

株式会社イタリアントマトでは、シーズンフェアとして、いちごを使用した各種スイーツや乳酸菌入りいちごドリンクを取り揃えた「ストロベリーフェア」を実施、シーズンメニューとして、色々な野菜を煮込んだ旨みが凝縮した「11種野菜のスープパスタ」、濃厚なクラムチャウダー仕立ての「アサリのスープパスタ」を販売しました。店舗出店においては、国内で富山県に「カフェジュニア 富山アピア店」、長崎県に「ケーキショップ イオンタウン長与店」を出店、海外ではラオスに「イタリアン・トマト ラオスビエンチャンセンターポイント店」など、国内外に4店舗を出店する一方、不採算店の閉鎖を進め、店舗数は245店（直営店55店、FC店190店）となりました。

株式会社アモンドでは、アモンド六本木店と銀座店において、昭和40年代にアモンドで愛されていたハンバーグライスなどの洋食や、フルーツポンチなどのデザートメニューを復刻し、「アモンド昭和食堂」、「アモンド昭和パーラー」として展開しました。

業績につきましては、売上面では付加価値の高いメニューの投入や販促フェアを進めたことにより、前年実績を上回り、利益面でも売上増加と販管費の効率的な運用により増益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における飲食関連事業の売上高は12億16百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は21百万円（同500.4%増）となりました。

（その他）

その他事業の当第1四半期連結累計期間における売上高は11億34百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益は1億38百万円（同27.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は前連結会計年度末に比べて5億86百万円増加し、512億94百万円となりました。

流動資産は5億7百万円増加し、297億19百万円となりました。これは受取手形及び売掛金の増加(6億57百万円増)などによるものであります。

固定資産は78百万円増加し、215億74百万円となりました。有形固定資産は償却が進んだことにより88百万円減少しました。無形固定資産は52百万円増加し、投資その他の資産は投資有価証券の増加(1億28百万円増)などにより1億13百万円増加しました。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べて3億8百万円増加し、149億83百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べて87百万円増加し、123億77百万円となりました。

固定負債は2億20百万円増加し、26億6百万円となりました。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて2億77百万円増加し、363億10百万円となりました。これは利益剰余金の増加(1億46百万円増)、その他有価証券評価差額金の増加(1億9百万円増)などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、現時点において平成29年5月12日に公表致しました業績予想の変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,708	5,542
受取手形及び売掛金	11,057	11,715
有価証券	2,000	2,000
商品及び製品	2,703	3,183
仕掛品	207	220
原材料及び貯蔵品	5,664	6,228
繰延税金資産	298	211
その他	598	650
貸倒引当金	△25	△31
流動資産合計	29,211	29,719
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,210	5,156
機械装置及び運搬具（純額）	2,069	2,024
土地	6,315	6,315
その他（純額）	737	746
有形固定資産合計	14,332	14,244
無形固定資産		
のれん	226	318
その他	274	235
無形固定資産合計	501	553
投資その他の資産		
投資有価証券	4,933	5,062
長期貸付金	93	88
繰延税金資産	66	71
差入保証金	1,319	1,289
その他	420	435
貸倒引当金	△170	△169
投資その他の資産合計	6,662	6,776
固定資産合計	21,496	21,574
資産合計	50,707	51,294

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,859	8,666
短期借入金	172	126
未払金	1,870	1,709
未払法人税等	387	122
賞与引当金	596	341
その他の引当金	3	3
その他	1,398	1,407
流動負債合計	12,289	12,377
固定負債		
長期借入金	190	365
繰延税金負債	96	185
再評価に係る繰延税金負債	478	478
その他の引当金	3	4
退職給付に係る負債	914	916
資産除去債務	270	234
その他	430	419
固定負債合計	2,385	2,606
負債合計	14,674	14,983
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,628	4,628
資本剰余金	5,040	5,055
利益剰余金	29,650	29,797
自己株式	△891	△891
株主資本合計	38,428	38,590
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	652	761
土地再評価差額金	△3,545	△3,545
為替換算調整勘定	23	9
退職給付に係る調整累計額	△181	△178
その他の包括利益累計額合計	△3,050	△2,952
非支配株主持分	654	672
純資産合計	36,032	36,310
負債純資産合計	50,707	51,294

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	16,654	16,498
売上原価	11,909	11,957
売上総利益	4,745	4,540
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び見本費	278	313
荷造運搬費	391	472
車両費	119	126
貸倒引当金繰入額	—	7
役員報酬	78	81
給料及び賞与	1,316	1,308
賞与引当金繰入額	224	239
退職給付費用	46	49
福利厚生費	221	221
賃借料	298	301
減価償却費	85	82
消耗品費	85	88
研究開発費	56	67
その他	602	665
販売費及び一般管理費合計	3,806	4,026
営業利益	938	513
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	33	16
持分法による投資利益	19	3
受取家賃	10	5
固定資産受贈益	—	15
その他	30	13
営業外収益合計	95	57
営業外費用		
支払利息	1	2
為替差損	10	—
その他	2	1
営業外費用合計	14	3
経常利益	1,019	566

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
特別利益		
段階取得に係る差益	—	21
特別利益合計	—	21
特別損失		
持分変動損失	1	—
災害による損失	4	—
特別損失合計	6	—
税金等調整前四半期純利益	1,012	588
法人税、住民税及び事業税	215	88
法人税等調整額	154	123
法人税等合計	370	212
四半期純利益	642	376
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	29
親会社株主に帰属する四半期純利益	636	346

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	642	376
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△247	107
為替換算調整勘定	△2	△12
退職給付に係る調整額	△10	3
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	3
その他の包括利益合計	△261	102
四半期包括利益	380	479
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	377	450
非支配株主に係る四半期包括利益	3	28

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,369	1,209	15,579	1,075	16,654	—	16,654
セグメント間の内部売上高 又は振替高	118	10	128	341	469	△469	—
計	14,487	1,219	15,707	1,417	17,124	△469	16,654
セグメント利益	966	3	969	108	1,078	△139	938

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益の調整額 △1億39百万円には、セグメント間取引消去 △11百万円、棚卸資産の調整額 19百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △1億46百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,147	1,216	15,363	1,134	16,498	—	16,498
セグメント間の内部売上高 又は振替高	119	6	126	378	505	△505	—
計	14,266	1,222	15,489	1,513	17,003	△505	16,498
セグメント利益	512	21	534	138	672	△158	513

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業、通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益の調整額 △1億58百万円には、セグメント間取引消去 △10百万円、棚卸資産の調整額 2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △1億50百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。